

定例会議の資料38-1-1の後に此の2ページが追加された。

安全3-1-2別添

H-II Aロケット15号機打上げ安全監理業務の 実施体制について

平成20年10月24日
宇宙航空研究開発機構
宇宙輸送ミッション本部

1. 経緯

- (1) 従来は、本部長を打上げ実施責任者とする全社的な臨時組織「打上げ隊」でH-II Aロケットの打上げに係る業務を実施してきた。

【打上げ隊の業務範囲】

- ・ ロケット系業務(射場整備作業、打上げ)
- ・ 打上げ安全監理業務(飛行安全、地上安全確保)
- ・ 衛星系業務(衛星射場作業:JAXA衛星の場合)
- ・ 後方支援業務(広報、総務、渉外等)

- (2) 平成19年度からの民間移管により、ロケット系業務はMHIが担当し、JAXAは打上げ安全監理業務を実施することとなった。
- (3) これを受け、13、14号機では、臨時組織「打上げ管制隊」を編成し、打上げ安全監理業務を実施した。なお、確実な移管を最優先とし、後方支援業務も隊業務として位置付け、本

部長を長(打上げ安全監理責任者)とする全社的な体制を継続した。

- (4) 平行して、安全監理業務をより確実な体制で実施するべく、全社的な臨時組織ではなく打上げ現場である鹿児島宇宙センター(KSC)の定常組織で実施できる体制について検討を行ってきた。また、経費及び人員削減などの業務の効率化についても取り組んできている(14号機から段階的な人員削減を図っている)。

【JAXAが達成すべき業務運営に関する目標】(参考)
(平成20年4月1日総務省、文部科学省)

ロケットの民間移管に伴い、JAXAの行う安全確保に係る業務等の経費及び人員の削減に努める。

2. 15号機の体制(図-1参照)

- 13、14号機の実績を踏まえ、打上げ安全監理業務に特化した「打上げ管制隊」を構築し、臨時組織の規模縮小を図る。
- 他部署からの支援が必要な一部の業務を除き、可能な限りKSCの定常組織で実施する体制を構築すると共に、現場でのより円滑な指揮命令システムを確保するため、従来からも打上げ実施責任者代理及び打上げ安全監理責任者代理であったKSCセンター所長を打上げ安全監理責任者とする。
- なお、事故時の危機管理体制は従来どおりの理事長を長とする体制を継続する。
- また、15号機の結果も踏まえ、次年度からは、臨時組織を組織せずKSCの定常組織で打上げ安全監理業務を実施するよう取り組んでいく。

以上

<F14での体制>

打上げ管制隊



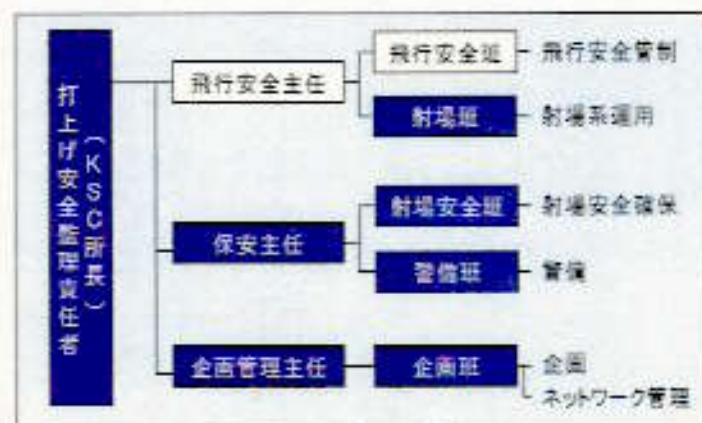
打上げ安全監理業務



後方支援業務等

<F15での体制>

打上げ管制隊



打上げ安全監理業務



後方支援業務等

■ 実質的にKSC定常組織で対応

図-1 H-IIAロケット15号機 打上げ安全監理体制